

情報科学部

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

情報科学部では、情報系学会標準に基づいたカリキュラム設計および最新動向に対応した改訂を数年ごとに継続的に実施している。また、2015年度のカリキュラム改革により、基礎教育科目に重点を置くとともに、演習科目を充実、レポート作成時の教員の指導体制の充実など、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が継続的かつ適切に提供されており、高く評価できる。また、大学院講義科目であるオープンセミナーを通して、定期的に全教員が研究内容についてプレゼンテーションを行い、授業参観を定期的に行うなど教員間の情報共有が行われており、教育の資質の向上を図るための方策が適切になされている点も高く評価できる。さらには、GBCを積極的に活用し、オンライン開催による学習支援および指導を継続的に行っている点も高く評価される。情報科学部の特性を生かし、アクティブラーニングを用いた効果的な同時双方向遠隔授業による教育システムの構築を実現することに期待したい。

オフィスアワーをGBCに集約し、学生アシスタントと共に学習支援・指導、授業外学習の支援が適切に行われていることを極めて高く評価する。コース毎の成績分布を講義レベルの指標とし、学び直しや再履修クラス編成に反映しており、成績評価と単位認定の適切性、また厳格な成績評価を行う取り組みは評価できる。TOEIC®、学会表彰件数、情報処理技術者試験合格者数などの評価指標を学部独自のポートフォリオシステムで可視化し、学生に共有している。オープンセミナーを教員・学生が交流する場として活用、また授業参観、複数教員が担当する講義、積み上げ方向の関連科目は、講義方法や内容を共有しており、学部内のFD活動が適切に行なわれている。また、科研費インセンティブ予算を学部が管理し、学生の外部発表の支援強化に利用しており、研究活動の活性化や資質向上を図るため取り組みとして評価できる。

中期年度・年度目標に関しても、具体的かつ詳細な目標や達成指標を設定したうえで、年度末には質保証委員会による厳格な自己評価を実施するなど、適切な運営が行われている。2020年度目標については、一部明確でない目標もあるが、対応を進められる過程での具体化を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

現在、2022年度を目標に次の情報科学部のカリキュラム改革を進めている。この改革では、データサイエンスなどの新たな注目領域の教育を意識しており、情報科学部の教育課程・教育内容の充実を目指すものである。2020年度、2021年度は、オンライン授業に切り替わったことで、授業実施にも多くの課題があり、積極的な授業参観が行われた。ポストコロナも見据えた授業方法の改善と共有を継続して行っていきたい。GBCを活用した学習支援・指導、授業外支援のシステムは、オンライン授業下で、非常に大きな役割を果たした。教室内で学生が授業内容について情報交換できない現在、GBCの活用者数は増加しており、今後も強化を図る予定である。教育環境が急速に変化しており、変化に追従できるよう、今後も年度・中期目標を適切に設定し、その実現を目標にしていきたいと考える。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

情報科学部では、2015年度カリキュラム改革にて専門的技術の最新動向に適用しやすい教育体系の構築を行ったことに続いて、2022年度を目標に次の情報科学部のカリキュラム改革を進めていることが評価できる。この改革は、データサイエンスなどの新たな注目領域の教育を意識したものとして、情報科学部の教育課程・教育内容の充実に繋がることを大いに期待する。2020年度、2021年度が、オンライン授業になったことから、授業実施のための課題が明らかになったが、COVID-19後を見据えた授業方法の改善と共有が継続して行われることを確認した。また、COVID-19の影響による学習支援が困難である状況下において、GBCを積極的に活用した学習支援・指導、授業外支援のシステムが、オンライン授業下で大きな役割を果たし、活用者が増加したことを高く評価したい。さらに、急変する教育環境に対して、オンライン授業ポータルサイトによって学生が授業形態を把握できる仕組みづくりや学習についてこれない学生へのフォローなどの対応、保護者へのオンライン説明会などを実施していることは高く評価でき、これらを全学的に展開していくことを期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>2015年度カリキュラムから、より基礎教育に重点を置いた教育課程を編成した。学士力を担保するために、座学による講義に加えて演習科目を多く配置し、問題を解きながら学べる科目構成を導入した。また、実験を通してグループとしての問題解決方法の指導を行う数理実験において、レポートに対する教員による指導の仕組みを導入することで、技術的な文章の作成力の育成をはかっている。2020年度には、情報科学卒業論文、情報科学特講をセメスタ化することで、基本科目は全てセメスタ開講になり、学生の履修パターンの柔軟性に考慮した教育課程の編成を提供している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2020年度に、情報科学部卒業論文と情報科学特講をセメスタ化することを教授会決定し、これにより、秋学期からの海外留学や、秋卒業を容易にすることが期待できる。2021年度から実施する。また、データサイエンス教育の観点を取り入れ、2022年度からのカリキュラム改革の活動を開始した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 ・カリキュラムツリー (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・カリキュラムマップ (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・第407回教授会議事録(2020/10/20)「卒業研究のセメスタ化について」 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>情報処理学会等の情報系の学会が提示している情報科学分野の高等教育のためのカリキュラム標準によりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を数年ごとに行っている。2015年度新入生から導入した新カリキュラムでは、情報科学分野の知識体系をコースとして明確化している。さらに、2022年度を目標に、さらなるカリキュラム改革を進めている。順次的・体系的な学修を明確にするために、コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学の各コースのカリキュラムツリーを作成し、ガイダンスにて学生に説明している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリー (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・カリキュラムマップ (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) 	
③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>2015年度からの新カリキュラムでは、卒業所要単位として、外国語科目10単位、教養科目10単位の履修を定めており、情報科学の専門分野以外の幅広い教養を身につけることを求めている。教養科目群については適宜見直しを進めていて、2020年度から、諸外国語科目、および、留学生のための日本語教育科目を開講した。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2020年度から、教養科目としての諸外国語および留学生向けの日本語科目を開講し、学生への履修指導を行い、延べ49名の学生が該当科目を履修した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育には、数理実験において理系レポート作成の基礎技術を指導しており、問題のあるレポートを中心として全教員による指導体制をとっている。また、情報科学リテラシにおいて、理系の専門分野の学習に備えた技術英文の読解の導入講義を行っている。数学・物理系の基礎科目においては高校の学習との連続性に配慮して講義内容を設定している。また、情報科学の導入的な基礎科目として、情報科学入門、コンピュータシステム入門1/2、プログラミング入門を設置している。高大接続としては、例年、数学プレースメントテストを実施してきたが、COVID-19の影響で、2020年度は中止となった。2021年度については、オンラインで実施している。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学学則 情報科学部設置科目	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S A B
※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 卒業所要単位の外国語科目 10 単位に加え、英語での学会等の発表を想定したテクニカルプレゼンテーションを開講している。さらに、2020年度から、諸外国語科目、および、留学生のための日本語教育科目の開講を開始した。なお、2020年度から、学部主催のSAを企画したが、COVID-19のため、2020年度、2021年度の実施を中止した。このほか、情報科学特講では英語論文を読むことを推奨し、その論文内容の発表会を開催している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2020年度から、教養科目としての諸外国語および留学生向けの日本語科目を開講し、学生への履修指導を行い、延べ49名の学生が該当科目を履修した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学学則 情報科学部設置科目	
⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S A B
※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 3年次のインターンシップ科目は、インターンシップの準備講義に始まり、夏に企業でインターンシップに参加し、秋に報告会を実施している。資格取得に向けては、情報処理技術者試験の受験を推奨し、集中講義による教育を実践している。多くの企業で英語力の把握に使っているTOEICを年2回学部で実施し、英語力の定着を目指している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学学則 情報科学部設置科目	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。 ・入学時に数学のプレースメントテストを実施し、習熟度による科目選択を指導している。ただし、2020年度は、COVID-19の影響で未実施である。 ・英語は入学時のTOEICをプレースメントテストとして活用し、習熟度別クラスを編成している。ただし、2020年度は、COVID-19の影響で、入学時のTOEICをプレースメントテストは未実施であり、入試経路や入試成績などを総合的に判断してクラス編成を実施した。 ・学科を横断したコース制を導入し、身につける情報科学分野の知識体系をコースとして選択させている。 ・基礎科目において学び直しの仕組みを導入するとともに、主要な科目において前提履修科目を設定している。 ・例年、新入生には、全員個人面談による履修・生活指導を実施している。2020年度は、オンライン授業という特殊性を加味し、全学年の学生に対して、オンライン個人面談を実施し、履修・生活指導を徹底した。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 従来から、新入生に対しては、全員個人面談を実施してきた。2020年度は、オンライン授業への変更もあり、学生の学習・生活への影響が大きいと判断し、全学生とオンラインによる個人面談を年2回実施し、履修、学習、生活指導を行った。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・カリキュラムツリー (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・カリキュラムマップ (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・履修ガイド ・第406回教授会議事録(2020/10/16)「学生との面談について」	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。また、教員のオフィスアワーを GBC(Glass Box Office Hour Center)に集約し、学生アシスタント(SA)と共に、学習支援を行っている。なお、2020 年度からは COVID-19 の影響により、オンラインにて GBC を開室している。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>GBC による学習支援体制を、オンライン対応に移行したことで、多数の学生が GBC を訪問し、学生アシスタントや教員から、学習指導を受けることができた。成績の振るわない学生および保証人に対しても、オンライン、あるいは、対面による選択式の面談を実施した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ GBC ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>授業改善アンケートの結果を振り返り、各科目の授業外学習の時間の到達度を把握し、授業外学習の短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っている。また、GBC にて授業外学習の支援を行っている。なお、2020 年度については、COVID-19 の影響で、春セメスタに、全学の授業改善アンケートが実施されなかったため、情報科学部独自で、同様のアンケートを実施し、在宅の学習時間が極端に増加していないことを確認した。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>春セメスタにおいて、情報科学部独自の授業改善アンケートを実施し、いち早く、COVID-19 の学習時間に与える影響を分析した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 第 403 回教授会議事録(2020/9/19)「授業改善アンケート最終報告」</p>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S A B
<p>【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報科学プロジェクトにより 1 年次秋学期から PBL 型の講義を実施している。早い段階から専門分野への興味を引き出すことで、基礎・専門科目の学習／理解の動機となることを目している。 ・ リクエストを参考に開講内容を設定する「リクエスト集中講義」科目があり、夏季休業、春期休業を中心に先端技術の知識を得る場として開講している。 ・ COVID-19 の影響により、2020 年度の春セメスタからオンライン授業を実施しているが、87%の授業をリアルタイムオンライン授業として実施し、教育内容の維持を図った。2021 年度には、ハイフレックス型授業を積極的に活用している。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>COVID-19 への対応として、87%の授業でリアルタイムオンライン授業を実施した。全授業について、時間割に沿って「zoom/webex の ID/パスワード情報」、「hoppii/moodle/web などのオンライン資料置き場」「教員と TA へのメール連絡先」の情報を一元管理する「オンライン講義ポータル」を作成し、日々変わる授業実施状況を一覧で確認できるサービスを提供した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 情報科学部ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/</p> <p>・ オンライン講義ポータル https://cms.cis.k.hosei.ac.jp/course/view.php?id=477</p>	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義に関しては、学科・コース毎の必修・選択の違いや基礎科目であるか否かといった観点から受講者数を想定し、適正なクラス規模となるように必要に応じて複数のクラスを開講している。 ・ 英語については少人数の能力別クラスを展開している。 ・ 講義内容を補助する演習科目については、想定される見込み履修者から少人数クラスとなるようなクラス数を開講している。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 情報科学部時間割表</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。

※取り組みの概要を記入。

- ・オンライン授業開始にあたり、4月中にオンラインガイダンス、オンライン質問会、オンライン接続会などを繰り返し、オンライン授業のスムーズな開始を目指した。授業開始直後には、オンライン接続トラブルのための専用メーリングリストを開設し、後記のオンライン講義ポータルを使って、対応可能教員による即時のトラブル対応体制をとり、障害を最小限に留めた。
- ・対面授業と同等の教育の質を保証するために、87%の授業をリアルタイムオンライン授業として提供した。学部独自の授業改善アンケートを実施し、通常授業と変わらない授業理解度、工夫度評価を得た。
- ・全ての授業のオンライン授業実施 URL、資料 URL、教員への質問メールアドレスを一覧できるオンライン講義ポータルを開設し、1年を通して情報更新した。学生目線からは、授業に参加する情報を全て提供するサイトであり、まず、このポータルに入って、zoomなどのオンライン授業に参加する場となった。授業運用面としては、授業にトラブルが生じた時に、主任会議メンバーが、講義ポータルを通して、即時にその授業に参加でき、学生へのバックアップ指示を出すことを可能とした。
- ・オンライン授業の特性を生かし、プログラミング系の授業において、予習中心の反転授業を実施し、講義時間中には、教員とTAによるきめ細かい個別指導が実施できる環境を提供した。
- ・全学生とオンライン面談を実施することで、オンライン授業への不安や、生活面・メンタル面の問題への支援を行った。
- ・春と秋に保証人向けにオンライン説明会を開催し、教育内容や教育方法について、家庭での理解を得る努力を行った。春・秋ともに、約200名の参加者があった。
- ・教育成果を評価するために、オンライン試験の可能性を探求し、答案をスキャンして提出する試験、Webサイトで小問を大量に課す試験などを実施し、通常の成績評価と変わりのない成績評価を行った。成績評価結果の事後分析を行い、著しく成績評価に変化があった科目については、教員への指導を実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・オンライン講義ポータル <https://cms.cis.k.hosei.ac.jp/course/view.php?id=477>
- ・第399回教授会議事録(2020/6/12)「5/30(土)保護者向け説明会について(実施報告)」
- ・第401回教授会議事録(2020/7/10)「オンライン試験実施にあたってのガイドライン」
- ・第403回教授会議事録(2020/9/18)「【FD】2020年度春学期成績評価分析の共有について」
- ・第403回教授会議事録(2020/9/19)「授業改善アンケート最終報告」
- ・第406回教授会議事録(2020/10/16)「学生との面談について」

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度について教授会で意見交換している。重要科目については、学び直し制度や再履修クラスの設定を行い、適切なレベルでの単位認定が行われるようにしている。
- ・成績評価について執行部が学科やコースなどの属性毎の成績分布の違いを分析し、各教員の成績評価や講義のレベル設定の適切性の指標として教授会で情報提供を行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第403回教授会議事録(2020/9/18)「【FD】2020年度春学期成績評価分析の共有について」

②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

厳格な評価をスムーズに行うために、科目ごとの教員裁量による成績評価を集約したコース毎の成績を集計している。基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、後続科目への必要性に応じた適切な評価を実現している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

オンライン授業中心に変更された春セメスタは、定期試験の実施形態も大きく変わり、成績評価への影響があると予測し、春セメスタの成績確定時に、前年との成績評価傾向の違いを分析した。その結果、大多数の科目については、成績評価に変化がないことを確認し、大きく変化があった科目については、教員と面談をし、状況認識と是正について協議を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・第403回教授会議事録(2020/9/18)「【FD】2020年度春学期成績評価分析の共有について」	
③学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>教授会にて、随時、学生の就職状況・進学状況を報告している。また、2名の就職担当教員が1年ずつずらしながら2年間就職担当を受け持つことで、長期化する就職活動に対して適切に状況把握や指導を行うことができるようにしている。また、就職状況について、オンラインのスプレッドシートで情報共有を開始し、随時、指導が必要な学生を把握できるシステムとした。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第406回教授会議事録「就活支援用スプレッドシートへの記入のお願い」</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>GPAの分布、単位取得状況、授業への出席状況、進級情報など、主任会議で学生の詳細なデータを把握して分析し、教授会で情報共有している。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第403回教授会議事録(2020/9/18)「【FD】2020年度春学期成績評価分析の共有について」</p> <p>・第414回教授会議事録(2021/2/19)「2020年度進級、卒業判定及び卒業再試験該当者について」</p>	
②「学修成果の把握に関する方針(アセスメント・ポリシー)」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・入学時にプレースメントテストを実施し、基礎能力を確認している(2020年度はCOVID-19の影響で未実施。2021年度はオンライン実施)。</p> <p>・専門科目の基礎科目では、基礎力確認テスト(Mastery Test)を実施し、専門基礎力を測定している。</p> <p>・卒業論文、特講発表会は、複数教員による評価を行い、最終的な学習成果を測定している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・情報科学部 アセスメントポリシー</p>	
③「学修成果の把握に関する方針(アセスメント・ポリシー)」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>・2020年度はCOVID-19の影響で未実施であったが、2021年度には、新入生に対して数学プレースメントテストとTOEICをオンライン受験させ、基礎能力を確認した。</p> <p>・専門基礎科目において、基礎力確認テスト(Mastery Test)を実施した。</p> <p>・秋学期初めの卒業論文中間発表会では、卒業論文の進捗を教授間で共有し、進捗の遅れている学生を抽出して、追加指導を実施した。</p> <p>・卒業論文発表会は、8グループに分かれ、各グループ3人の教員により、学習成果を相互評価した。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第404回教授会議事録(2020/9/26)「卒論中間発表」</p>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>・2020年度から導入した英語教材 Academic Express では、英語の学習時間、達成レベルを可視化するポートフォリオを提供し、学習進捗を学生自らが管理できるようにした。</p> <p>・卒業論文の抄録集を作成し、学生に公開した。</p>	
<p>【2020年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>英語教育に関するポートフォリオ(Academic Express)を導入した。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・年度末の進級判定にあたって、全体的な成績分布や単位取得状況の分析を行っている。 ・単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行っている。 ・分析結果と面談の状況は教授会に報告し情報共有している。 ・2022年度に向けて、カリキュラム委員会を設置して、新カリキュラムの検討を開始した。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・2022年度に向けて、新カリキュラムの検討を開始した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・成績不振者向け保護者面談会の案内、および、面談記録(内部資料) ・第415回教授会議事録(2021/3/5)「カリキュラム改変」	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
※利用方法を記入。 ・授業改善アンケートの結果を、データで入手し、学部教授会内で共有し、分析を行っている。 ・2020年度春 semester は、全学的な授業改善アンケートが実施されなかったが、情報科学部では独自に、例年と同じ内容のアンケートを実施・分析し、秋学期の授業方針に反映させた。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2020年度春 semester は、全学的な授業改善アンケートが実施されなかったが、情報科学部では独自に、例年と同じ内容のアンケートを実施し、COVID-19への対応として実施されたオンライン授業においても、例年と同じ満足度や理解度を得ていることを分析し、秋学期の授業方針に反映させた。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第403回教授会議事録(2020/9/19)「授業改善アンケート最終報告」	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・「学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置」として、COVID-19の状況下で、可能な限りの取り組みを実施した。特に、授業実施形態をリアルタイムオンライン授業に転換するだけでなく、新入生オンラインガイダンス(接続環境説明会を含む)、全学生とのオンライン面談、GBCを活用したオンライン学習支援、保護者向けのオンライン説明会など、教職員の全面的な協力体制により、機動力を持って取り組むことができた。	1.2

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画(既に実施している場合にはその進捗状況も含めて)をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、2015年度のカリキュラム改革により、より基礎教育科目に重点を置きながら、演習科目を充実、レポート作成時の教員の指導体制の充実など、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が継続的かつ適切に

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

提供されており評価できる。2020年度に教授会決定され2021年度から実施される、情報科学部卒業論文と情報科学特講のセメスタ化により、海外留学や秋卒業などの柔軟な運用が可能になることを期待する。2020年度からは、諸外国語科目、および、留学生のための日本語教育科目の開講を開始され、学生の国際性の涵養に寄与することが期待される。

2020年度はCOVID-19の影響で、プレースメントテストや全学的アンケートが実施できない中で、入試経路、入試成績など活用できる情報を総合的に判断したクラス分けなど、学生の学習を支援している。授業アンケートも独自に実施するなど、きめ細かい対応が評価できる。さらには、COVID-19下にあつて、いち早くオンライン化を進め、従来からの集約されたオフィスアワーGBCもオンラインで活用するなど、情報科学部の分野の特性を生かした取組みは高く評価される。今後、オンラインで得た知見をさらに教育研究にフィードバックすることを強く期待する。

全体として、教育課程・学習成果の評価はおおむね適切に機能していると考えられ、高く評価できる。2022年度以降については、データサイエンスの学部横断的な取り組みやコース制の改変等明確な指標が計画されており、今後の取り組みに期待したい。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。

- ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行うことができる。特に、複数教員が担当する同一講義の他クラスや講義の積み上げ方向の関連科目を中心に、講義方法や内容の共有を図っている。

【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・オープンセミナー（春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表）
- ・8科目以上で、授業参観を行った。同一科目を複数名で実施している教員間の情報共有、前提科目との情報共有を行った。
- ・ハイフレックス授業のためのハイフレックス機器説明会（2020/12/23）
- ・理系学部研究交流セミナー（2021/3/5）「5G時代に向けたプログラマブルネットワークの研究紹介／ハイブリッド講義の実施に向けて」廣津教授

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入
オンライン授業、ハイフレックス型授業についての授業実施形態の情報交流を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

- ・第411回教授会議事録（2021/1/15）「【FD】授業相互参観実施状況」
- ・第413回教授会議事録（2021/3/5）「小金井研究交流セミナー」

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入

- ・外部資金獲得の取り組みを進め、2021年度からの科研費公募に対して、9件の研究提案を行った。教授会で、科研費の獲得情報を公開することにより、教授間の共同研究関係などを共有し、今後の研究提案活動に結び付ける方策を講じた。
- ・教授会合意のもとで科研費インセンティブ予算を学部管理とし、学部生・院生が積極的に外部発表を行うように支援している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入
科研費について、2020年度に新規に4件が内定を受け、研究を開始した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

- ・特になし

③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

- ・オンライン授業、オンライン試験の実施方法、課題を教員間で共有し、特に、オンライン試験については、オンライン試験ガイドラインとしてまとめた。
- ・多数の教員が、授業の相互参観を行い、オンライン授業方法について学んだ。
- ・ハイフレックス授業の実施方法について、理系学部研究交流会の中で情報共有を行った。
- ・主任会メンバーを中心に、オンライン授業の実施方法検討グループ、必要機材調査グループ、トラブル対応グループなどを組織し、総合力でオンライン授業開始時の難局に対応した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

- ・第401回教授会議事録(2020/7/10)「オンライン試験実施にあたってのガイドライン」

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・教員採用人事において、新領域の若手教員を採用することができ、教員組織の編成を改善した。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・2021年度に2名の新任人事があるため、教員組織の編成という観点について、議論を継続する。	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、大学院講義科目であるオープンセミナーを通して、定期的に全教員が研究内容についてプレゼンテーションを2年間で一巡する形式で実施していること、全ての講義に対して自由に授業参観を行うことを可能とし、複数教員による同一講義の情報共有が行われていることなど、FD活動が適切になされていると評価することができる。

また、科研費等、外部資金獲得の努力も継続的になされており、科研費インセンティブを学部生、院生の学会発表に活用するなど、柔軟に運用することにより学生の研究意欲を高めるための方策をされていることは評価できる。2021年度の教員採用人事では新領域の若手教員が採用され、教員組織のバランス改善が見られ、今後の人事採用についてもこれから展開されるであろう分野の人材確保等明確なビジョンを持った計画が示されている点は評価できる。

さらに、COVID-19下の2020年度当初から、情報科学分野の強みを生かして、素早くオンライン、ハイブリッドに対応するための説明会等を継続的に行っており、対応が高く評価される。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っているか。

①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等におけるCOVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

・通信環境構築支援：

学生の自宅通信環境を確認するために、アンケート調査を行い、大学にさきがけで、無線ルータの貸与を行った。
学生のオンライン授業への接続の不安を軽減するために、貸与PCを利用したオンライン接続テストおよび相談会を複数回実施した。

・教育環境整備

オンライン授業環境をするため、zoom/webexとの早期のライセンスを実現した。
教員自らが、ハイフレックス機器の選定と設置にかかわり、講義室やゼミ室でのハイフレックス授業環境を実現した。

ALラボ2教室を、ハイフレックス授業のモデル教室として整備した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・学習管理

Zoom ログを用いて、学生の出席状況管理を行い、欠席多数の学生の抽出し、保護者に連絡した。

・学生の友達作り支援

新入生向けに、オンライングループワークを実施し、初対面の学生間にコミュニケーションの機会を提供した。
GBC を主体に、学生同士によるオンライン懇親会を開催し、学生の交流を活性化した。

【根拠資料】

- ・第 395 回教授会議事録(2020/4/10)「オンライン授業実施ガイドライン」
- ・第 396 回教授会議事録(2020/4/24)「オンライン授業について」
- ・第 402 回教授会議事録(2020/7/27)「グループワークの日程、実施方法等」

【この基準の大学評価】

情報科学部では、大学にさきがけて、学生の自宅通信環境アンケート調査、無線ルータの貸与、接続テストと相談会、zoom/webex の早期ライセンス、教員自らによるハイフレックス機器の設置など、情報科学分野ならではの、早期の取組みを開始、継続していることが高く評価される。これらの取組みをもとに、87%の授業をリアルタイムオンライン授業として提供し、学部独自の授業改善アンケートを実施した結果、通常授業と変わらない授業理解度、工夫度評価を得ている。さらにこれらの情報を一元管理する「オンライン講義ポータル」を作成し、日々変わる授業実施状況を一覧で確認できるサービスを提供するなど、独自の取組みを高く評価したい。オンラインによる学生同士の交流会の工夫、保証人向けの説明会開催など、いずれも学部の専門分野の強みを生かした取組みであり、このような情報が全学的に共有されることは望ましいと考える。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導体制の構築を目指す。	
	年度目標	在学期間全体にわたる学修状況の分析を行い、教育課程・内容の見直しを検討する。卒業論文、特講のセメスター化を検討し、自由度の高い教育課程を目指す。	
	達成指標	卒業論文、特講のセメスター化の実現	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	学生個人ごとの4年間の単位取得とGPA推移について分析し、1年2年の秋学期にGPAが低下する結果などを教授会に報告した。卒業論文と特講のセメスター化について教授会に提案し、承認を得た。
		改善策	卒論と特講のセメスター化については、次年度より実施する。混乱が生じないように学生への周知を徹底する。
質保証委員会による点検・評価			
所見	在学期間全体の学修状況を、全学生のGPA推移を分析することを通して把握したことは大いに評価できる。また、授業のセメスター化を進めることは、留学など多様な学び方を支援することにつながることを期待される。		
改善のための提言	セメスター化することにより、学生が混乱しないよう、徹底した周知を行うことが必要である。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	座学・実習・演習が中心となる情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。	
	年度目標	同時双方向型の遠隔授業の在り方を、その実施を通して検討し、将来にわたる同時双方向型の遠隔授業の活用方法を確立する。	
	達成指標	オンライン授業における同時双方向型の遠隔授業の実施率	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		S	
理由		同時双方向型のオンライン授業の実施ガイドラインを示し、オンライン講義ポータルを作	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			成して円滑な運用を行った。プログラミング科目では再履修生の履修方法の改善を含み、新しい講義形態を提案した。その結果、春学期は85%、秋学期93%の講義を同時双方向型で実施した。学生の授業満足度に大きな変化がないことをアンケートにより確認した。	
		改善策	引き続き、オンライン授業による授業実施方法の改善に取り組む。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	学部のほとんどの授業において同時双方向型のオンライン授業を行い、学部をあげてより良い同時双方向型のオンライン授業を追求し、学生がオンライン授業になっても混乱しないような仕組みを構築し、結果として、学生がオンライン授業においても高い満足度を得られたことは、高く評価できよう。	
		改善のための提言	ハイフレックス型の双方向授業など、さらに新たな様式の授業実施方法の開発に取り組むことが期待される。	
No		評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3		中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。	
		年度目標	科目内の基礎力確認テスト、学部内で総合的に学習成果を評価するための情報処理技術習熟度確認試験、さらに、学外で実施される技術者試験、学会発表を組み合わせた学修達成度を検討する。	
		達成指標	基礎力確認テスト、GPA、情報処理技術習熟度確認試験、技術者試験、学会発表に基づく総合的な学修達成度指標を確立する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	新型コロナウイルス感染症の影響で、新入生の基礎力確認テストが未実施となった。春の情報処理技術者試験も中止となり、指標の確立に至らなかった。情報処理技術習熟度確認試験については、得点分析を行い、大学院推薦基準となる GPA に対する適切な加点レベルを決定した。	
		改善策	2021年度は、新入生向けの基礎力確認テストをオンラインで実施することを決定した。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	コロナ禍の中で、達成指標としてあげた数々のテストが実施されなかったため、達成を判断することができなかった。しかし、オンライン等で行われた学会に多くの学生が参加し、賞を受賞した学生も複数おり、また実施された習熟度確認試験によって評価を行ったことは今後につながると期待できる。	
		改善のための提言	コロナ禍の中でも利用できる指標の確立を期待する。	
No		評価基準	学生の受け入れ	
4		中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。	
		年度目標	指定校推薦、公募推薦において定員バランスを考慮した学生の受け入れを行う。また、2021年度入試から学科により異なる入試日を新規に採用し、受験しやすい制度を確立する。	
		達成指標	学科により異なる入試の実施と、その適切な査定。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	特別入試全体で、例年以上の応募者があり、一般入試の合格者数でバランスをとることで、高いレベルの学生確保につなげた。学科で異なる A 日程入試を実施し、受験者が 400 名弱 (28%) 増加した。査定においては、両学科の併願者を考慮した合格ラインを決定した。	
		改善策	入学者実数を見て、最終的な学生の受け入れ数のバランスと査定の判断の良しあしを分析し、2021年度の入試に反映させる。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	近隣私大が受験者数を減らす中で受験者数を伸ばしたことは、今年度より新たに実施した、		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			学科により異なる入試が、受験生にとって、受験しやすい制度となったことを表しているといえよう。	
		改善のための提言	実際に入学した学生数およびその入学生の学修状況を分析し、新たな入試制度の効果と査定判断のよし悪しを引き続き検討する。	
No		評価基準	教員・教員組織	
5	年度末報告	中期目標	学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FDや教員間の協働を進める。	
		年度目標	教育・研究領域を網羅する教員組織を編成するための人事を行う。	
		達成指標	教育・研究領域を定めた人事の実施。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	新任採用において、並列計算の計算量という新領域の教員を採用できた。また、採用教員は年齢も若く、教員組織の年齢構成を改善できた。	
		改善策	2021年度は2名の新任教員採用を予定しており、引き続き、研究領域と年齢構成を意識した採用を進める。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	新領域の教員を採用し、教育・研究領域の一層の網羅を図ると同時に、年齢構成を改善できた。		
	改善のための提言	新年度に新たに採用予定である教員についても、領域と年齢構成を意識した採用を進める。		
No		評価基準	学生支援	
6	年度末報告	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。	
		年度目標	オンライン環境における学生の学習支援、および、生活支援体制を確立する。	
		達成指標	オンライン授業実施・支援体制の確立。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	2回の全学生に対するオンライン面談と、夏季休業中の希望者に対する対面面談を実施した。保証人への説明会も2回開催し、学部の教育方針を学生の家庭に伝える努力を行った。新入生に対しては、オンラインガイダンス、質問会、グループワークを実施した。日常の学習・生活支援はGBCを活用した支援体制を整えた。	
		改善策	2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、急遽、オンライン対応せざるを得なく、十分な準備期間が確保できなかった。2021年度もオンライン授業が続くと予想されることから、安定した支援体制の確立を目指す。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	このコロナ禍において、授業がオンラインとなり、友人関係の構築が難しく、また、悩みごとに対しての相談体制などが整えにくい状況の中で、全学生への複数のオンライン面談、希望者への対面面談、友人関係の構築がなかなかできない状況を改善するための様々な取り組み、そして、保証人を対象とした複数回の説明会と、きめ細やかに対応したことは高く評価できよう。学生の高い満足度は、これらの一連の対応が学生支援になったことを表しているといえよう。		
	改善のための提言	2021年度は、ハイフレックス環境中心となるので、対面環境を効果的に活用し、同級生どうしのつながりや学年を超えた関係を構築できるような取り組みを進めることが望ましい。		
No		評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。		
	年度目標	卒業研究の学外発表を推進し、最新技術の社会に向けた発信を行う。		
	達成指標	卒業研究の学会発表数、および、受賞数。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	卒業論文について学会発表する学生数は31件の予定。
	改善策	学外への研究発表の支援を強化し、社会への情報発信を、より心掛ける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	このコロナ禍において、多くの学会が開催中止となった中、行われた数少ない学会に、多くの学生が参加・発表し、受賞した学生も複数いた。
	改善のための提言	より多くの学生が研究発表の機会を持ち、受賞に値する発表ができるように、継続的に、学生の研究支援を行う。
【重点目標】		
2020年度は、COVID-19の影響により、オンライン授業を実施している。この中で、特に、同時双方向型の遠隔授業を活用した教育方法の確立を重点目標に掲げる。遠隔授業の実施、学生支援に加え、学修成果の評価指標も含めて、将来にわたる大学の授業形態のひとつとして取り入れていることを意識した施策を検討する。		
【目標を達成するための施策等】		
同時双方向型の遠隔授業の基本実施方針を定め、教員・学生に周知する。そして、この方針のもとに生じた課題を整理・分析し、改善案を検討する。最終的に、将来にわたる同時双方向型の遠隔授業を活用した教育システム改革を目指す。		
【年度目標達成状況総括】		
2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、急遽、オンライン授業に切り替えたことで、年度初めは授業に混乱が生じたが、同時双方向型のオンライン授業を実施するという基本方針を教授会で決定し、学生向けに講義ポータルを作成して、授業参加をスムーズに行えるように整備するなど、オンライン授業の実施手法について、短期間に十分な体制を確立することができた。また、学期末には学部独自に授業アンケートを実施し、例年と同等の授業満足度や理解度を得ていることを確認した。成績の分析も行い、例年と大きく異なる採点が行われていることを確認した。学習、生活支援についても、オンライン面談を2回、保証人向け説明会を2回、GBCによるオンライン相談など、様々な取組みを行った。オンラインを活用した授業実施形態としては、プログラミング科目において、オンデマンド教材の予習を取り入れた新しい授業実施方式が提案され、来年度は、適用科目数を拡大する予定である。非常に厳しい1年であったが、オンライン授業を取り入れた新しい教育システムに向けた取り組みとしては、十分な成果があったと考える。		

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>情報科学部の2020年度目標の達成状況は、卒業論文と特別講義のセメスター化の翌年度からの実施、アクティブラーニングの一形態としてのオンラインによる同時双方向型授業実施、教員の新規採用による分野バランス、年齢バランスの向上においては大きな進展があったと評価される。入試形態の変更による学力評価のように、単年度ではその成果が測りにくいもの、COVID-19の影響で測定そのものが困難になったものもあるが、複数の指標の利用による補完や、オンラインを活用するなど、この状況下で出来ることを工夫されたという点が高く評価される。オンライン以前からの課題である学修に困難を抱える学生への支援についても、オンラインを工夫することできめ細かい支援が行われていることを確認した。また、オンラインだけでなく対面も含めたハイブリットでの対応、出席状況から予防保全的な対応を学生及び保証人に行っていることも評価できる。今後は教育と同様にこれら支援についてもオンラインと現場との適切なバランスを見出されることを期待したい。</p>
--

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導体制の構築を目指す。
	年度目標	データサイエンス教育を取り入れた新カリキュラムの検討を行い、2022年度から新カリキュラムによる教育課程を導入する。
	達成指標	新カリキュラムの制定と、それに沿った学則改定を実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	座学・実習・演習が中心とな情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	オンライン・オンデマンドを積極的に利用した教育方法を検討し、その導入効果の測定を行う。
	達成指標	オンラインの新教育方法を試験的に導入した授業数と、学修成果評価の実施。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。
	年度目標	入試経路、入学時のプレースメントテスト、科目内の基礎力確認テスト、情報処理技術習熟度確認試験、学外の技術者試験合格者、学会発表、大学院進学、GPA など、学修達成度相互の関係を分析し、学習方法、評価指標のあり方を再検討する。
	達成指標	学修達成度指標の相互関係の分析実施
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。
	年度目標	大学入試の動向変化を考慮し、一般入試の定員と合格者数に対する分析と見直しを行う。
	達成指標	2021 年度入試の分析と、分析結果に基づく合格者決定プロセスの改善。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FD や教員間の協働を進める。
	年度目標	2 人の新任採用人事を予定し、教育・研究領域を網羅する教員組織の編成を強化する。
	達成指標	教育・研究領域を定めた人事の実施。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。
	年度目標	オンライン授業が主体となることによる学生の生活への影響を考慮した学生支援体制を構築する。
	達成指標	学生との面談の実施。GBC の活用状況の分析。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。そして、外部機関との共同研究等を通して、研究活動の交流をはかる。
	年度目標	外部研究機関・企業との共同研究を推進する。そのために、共同研究の実態の調査分析を行う。
	達成指標	共同研究の実態調査の報告。
<p>【重点目標】</p> <p>データサイエンス領域の教育に対する社会ニーズが高まっており、それに呼応した新カリキュラムを作成する。新カリキュラムでは、ポストコロナを意識した科目履修方法についても検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>既に、カリキュラム委員会が活動を開始しており、予定スケジュールに沿って、具体的な科目設計を進める。</p>		

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

情報科学部の 2021 年度中期目標、年度目標は、共に前年度の達成状況を踏まえつつ、さらには 2022 年度からの新カリキュラムの準備と、COVID-19 下で進んだオンライン授業の成果を教育活動に生かすための前向きな目標が加えられており、概ね適切に設定されていると考えられる。

重点目標にあるように、データサイエンス領域の教育に対する社会のニーズは高まっており、そのための学部内でのコース横断的なカリキュラムや各コースの専門性の高い教育などを踏まえた新カリキュラム策定が検討されており、それらの遂行に大いに期待する。

一方、COVID-19 後を意識した科目履修方法についての検討が挙げられているが、例えばオンライン授業と現地での授業との適正なバランスを如何に評価するかなど、具体的な方策に落とし込む段階での課題は多いと想像される。情報科学部ならではの強みを生かして、COVID-19 下で得られた知見に基づくこれら課題へのアプローチを全学に先駆けて行われる

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ことを期待したい。

【大学評価総評】

情報科学部では、最新動向に対応したカリキュラム改訂を数年ごとに継続的に実施している。2015年度カリキュラム改革にて専門的技術の最新動向に適用しやすい教育体系の構築を行ったことに続いて、2022年度を目標に次の情報科学部のカリキュラム改革を進めていることが評価できる。この改革は、データサイエンスなどの新たな注目領域の教育を意識したものとして、情報科学部の教育課程・教育内容の充実に繋がることを多いに期待する。

2020年度、2021年度においては、ほとんどの授業がオンラインになったことから、年度目標がそのまま適用できない部分も多く苦心をされたことと思うが、むしろオンラインと親和性の良い情報科学分野の特性を十分に生かして、9割近い授業の双方向オンライン授業の実現、オンラインを活用した学生支援など、特徴的な取り組みが数多く見られたことを高く評価したい。また、授業内容に対する学生の習熟度に応じて、オンライン、オンデマンド及び対面をバランスよく適用した授業形態としていることも評価できる。早い段階からオンラインにおけるFDの取組みも意欲的に行われており、今後COVID-19後を見据えた授業方法の改善と共有が継続して行われることに期待する。

中期目標・年度目標に関しても、適切な設定が行われていると判断するが、一方で、オンラインだけで完結する学習や支援は難しいことから、例えばオンライン授業と現地での授業との適正なバランスを如何に評価するかなど、具体的な方策に落とし込む段階での課題は多いと想像される。COVID-19下で得られた知見に基づくこれら課題へのアプローチが全学に先駆けて遂行され、急変する教育環境に迅速に対応するのに適切な分野である情報科学部が一層発展することを期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。